令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　　【松江市立　第三中学校　】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○書くこと・読むことについてはおおむねよくできている。	・文章を読むことに更に慣れることができるように、文章を読む機会を多く設ける。
	課題	●書くことの無回答率が非常に高い問題がある。	
数学	成果	○関数領域については、県平均を超えている。	中学3年4月時点では、既習事項の復習が十分ではなく県平均を下回っているものの、「自身の分からない箇所」を正確に言語化できる生徒が多く見られる(メタ認知の芽生え)。また、学習内容をアウトプットすることを通して理解を深める姿もうかがえる。今後は、生徒の主体的なインプットおよびアウトプットを促す工夫を取り入れ、既習内容の確実な定着を図る。
	課題	●数と式、図形領域については、県平均を下回っている。 ●データの活用では、箱ひげ図以外のところの内容が県平均を下回っている。	
英語(成果または課題で話すことについて触れること)	成果	○聞くこと、話すことについては、比較的できている。	・英作文の対策として、語順の指導を帯活動として入れる。 ・話すことに慣れるように、話す活動を帯活動に入れる。
	課題	●書くことについては、問題によっては比較的できているものもあるが、多くの問題では、十分な結果が出ていない。	

(2)質問紙調査から見られた傾向

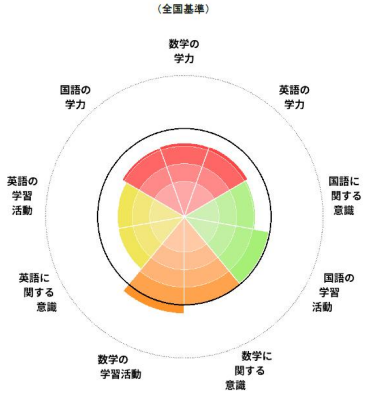
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○自分によいところがある、地域や社会をよくするために何かしてみたい、授業におけるICT機器の使用については、県、全国平均を上回っている。	各教科において、振り返りの中から「問い」を見出すよう働きかけるとともに、「問い」を見つけた生徒をクラス全体で価値付け(称賛)し、その「問い」に基づいた主体的な深い学びへと誘う。これにより、生徒の探究心を育み、主体的な学びを促進する。
	課題	●授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組むことは、県、全国平均を下回っている。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

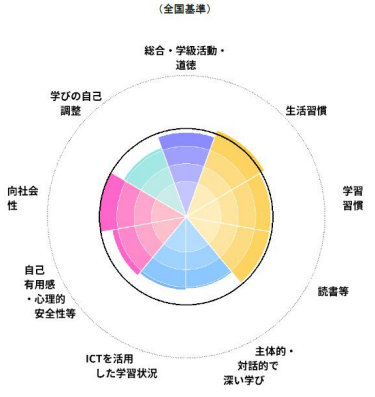
学校全体	以下の3点を重点として取り組む。 ・地域福祉の意識醸成 地域福祉の必要性と意義についての共通理解を図り、地域全体で福祉を考える授業を、地域社会との協働により継続的に実践する。 ・教員のファシリテーション能力の向上 教員が「学習内容と子どもを繋ぐファシリテーター」としての役割を深く理解し、具体的な授業場面で実践できるよう研修を充実させる。 ・データサイエンスに関する横断的学びの展開 各教科の枠組みを超えた、データサイエンスに関する学びを取り入れた授業開発を進める。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)

［教科を中心とした学力・学習状況］



［その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）］



【受検者数】

68 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

